

2015 2 February



Message from

Eri Tanaka

1月某日、再生医療の切り札とされるiPS細胞を病気の治療に使う研究が活発化してきたと新聞に掲載されていました。京都大学は将来の治療に使えるよう、備蓄中のiPS細胞を品質評価などのために国内の大学、研究機関に提供し始めました。また、患者本人のiPS細胞を神経系疾患であるパーキンソン病治療に使う臨床研究を2016年にも始めます。理化学研究所は目の難病を治療する臨床研究で2例目の準備を急ぎ、海外でもiPS細胞の臨床応用の計画が進みます。

国内での臨床試験の開始目標は以下のとおり。

2015-16 血小板、心不全、パーキンソン病、

2016-17 角膜

2017-2018 脊髄損傷、糖尿病 2019-2020 白血病、肝臓

血液関連の疾患も血小板と白血病が含まれています。また、当院でも京大に協力する形で特定疾患の患者さんの細胞を提供してもらい、iPS細胞バンクの設立に協力する研究が始まります。

医療の世界でも治療の大きなパラダイムシフト(paradigm shift)が起きようとしているのを感じずにはられません。